



学びの羅針盤ってなに？

子どもに対して、つい言ってしまうがちな「もっとよく考えて」「しっかり考えたの？」—でも、「もっとよく」「しっかり」って、具体的にはどういうこと？ じつは言っている側も曖昧だったり……？ 「考える」を「もっと」広げ、「しっかり」身につける道具があるといいます。それはどのようなものなのか、朝日新聞「わかるわかる運動」が、日能研に聞いてみました。



「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」—あなたならどのように考える？

部分と全体の関係

食料の生産を全体として置いたときに、生産を形づくるための要素は？ 飼料、肥料、気候、土壌、食文化、宗教、輸送、交通……いっぱいあるな。

この目標を達成するための行動として、全体（世の中や世界）と部分（私）、それぞれでできることは？ 国や国際間の取り決めとして行動をつくっていく。私個人が考えた行動を、広める、見せる、話してみる。私をもっと学ぶ。

具体と抽象の関係

すでに持続可能な生産ができているものって？ 再生可能エネルギー、ペットボトルなどのリサイクル。ペットボトルのリサイクル、本当に「持続可能」な状態のかなあ……。

私ができる「持続可能な消費」の具体的な行動は？ 買い物でエコバッグを使う。水筒を使うようにする。

目的と手段の関係

持続可能な消費をするために、どのような生産ができる？ 使い捨てとらない、使い回せる・傷みにくい商品を開発する。

「持続可能な消費と生産」の、「パターンを確保」するためには？ 誰か一人、企業の一つ、国の一つではなく、みんなが実行する。主流な価値観にする。

原因と結果の関係

この目標をすべての国が考えなければならなくなった原因は？ 一部の先進国だけの問題ではなく、開発途上国にも危機的な状況が生まれてきた。

「過剰な消費」「過剰な生産」を原因とすると、結果としてどんな影響が出てくる？ 使い尽くして、もっと生産をして、資源を使い尽くさなければならなくなる。消費しきれずにそのまま廃棄されてしまうものが出てくる。食品ロスとか。



対照の関係

「持続可能ではない消費と生産のパターン」って？ 一度使ったら再利用できない。残りの資源量・需要を考えずに生産し続ける。

先進国と開発途上国とで、これまでの消費と生産にはどんな違いがある？ 先進国ではひたすら消費・生産をしてきた時期があった。開発途上国は自然のなかでの自給自足をしているイメージがあるけど、なかには、開発が進むなかで消費重視型に変わりつつある国もある。

置き換えが可能な関係

はみがき、トイレ、手洗い……。

今日、私が使った水は、ペットボトル何本分になるんだろう？ クラスのみんなを合わせたら、どれくらいの消費になるのかな……。

「持続可能な消費と生産」の関係を、自然界に置き換えてみると？ 光合成、蒸散作用、呼吸作用。水力発電、太陽光発電、地熱発電なんかも？

言い換えが可能な関係

「持続可能」ってどういうこと？ どう言い換えられる？ 未来もずっと続けられること。終わらないこと。循環する。

「消費」と「生産」をそれぞれ言い換えると？ 使うこと。食べること。なくすこと。つくること。生み出すこと。自然の資源を使うこと。

特殊と一般の関係

いまの日本の動きは、世界の中では特殊？ 一般？ プラスチックストロー不使用など、他の国では普通なのかな？ 日本は遅れているの？ でも、分別・リサイクルなどは進んでいるようにも見えるけど。実態はどうなんだろう。

山間部や砂漠地帯など、特定の地域で取り組めることはあるかな？ う～ん???…… そうだ！ 相違点に注目してみよう！

大昔より、航海の道具として使われてきた羅針盤。人々は、まだ見ぬ世界を思い、羅針盤の指し示す方向に胸を高鳴らせたことでしょう。

子どもたちの学びも—日々、新たな知識と出あい、考え、迷い、学びながら、新しい自分と出あう。ワクワクしながら。仲間と学び合う楽しみにも出あいはじめ。そんな子どもたちの「考える」をさらに広げ、促進させるのが、日能研の「学びの羅針盤」です。8つの視点から、存分に物事の「関係」を把握していきます。

SDGs (世界の未来を変えるための17の目標) のなかの「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」について、子どもが自分事として考える場面。

とても大きく複雑に見えるこの目標について—さてどこから考えればよい？ どのように考えればよい……？ 日能研の子どもたちは、「学びの羅針盤」をクルクルと回しながら、この目標をさまざまな「関係」からとらえていきます。自分の「考える」を広げ、見えていなかったつながりを見つけていきます。たとえば、「具体と抽象の関係」でとらえたら—「持続可能な消費」の具体的な行動は？ 買い物で、お店の袋をもらわずに、エコバッグを使う。「学びの羅針盤」を使って、子どもたちの思考をさらに刺激する。では、「置き換えが可能な関係」でとらえて—「持続可能な消費と生産」を、自然界に置き換えてみると？ あ！ 光合成！ 蒸散作用。水力発電とか風力発電は？ 教科

の枠を越えて、知識がつながり出す。新しい「問い」が生まれる。「学びの羅針盤」に自分の思考を重ね合わせてみると、自分がよく使う「関係」、使いやすい「関係」、あまり意識していなかった「関係」も整理され、自分の「考える」が、よりはっきりしてきます。

また、どうしても「関係」を使って考えることが難しいときは、「学びの羅針盤」の外側の23の具体的な行動も使えます。「学びの羅針盤」は、未知の問題や課題を前にしても、諦めることなく思考を巡らせ、さまざまなアプローチを生み出し続け、「自分の答え」をつくるための道具となっていきます。入試問題と対話するときも、いま世界が直面している複雑で曖昧な地球規模で考えていかなければならない課題=

SDGsについても、だからこそ必要なのが、多様な視点、多様な立場からの「考える」のキャッチボール。複雑な問題を身近なことに置き換えて考えてみる。部分と全体、目的と手段、原因と結果……。仲間の「考える」と出あい、協働しながら進むことができたなら、未来は変えられるかもしれません。

このように「学びの羅針盤」は、自分自身の考えや表現の幅を広げ、仲間の意見を取り入れながら「それいいね！ ならばこんな考え方もできるかな」と、思考を動かしていく道具。日能研で自分自身のなかに取り込まれて深化した学びの道具は、これから先、複雑な問題に出あっても、自らが未来を切り拓いていく「持続可能なチカラ」となっていくのです。

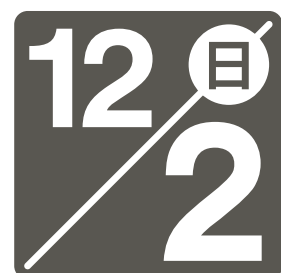
複雑な課題と向き合うときに、自らの思考を広げ、動かすための道具。

日能研経由、私学へ。—そして未来へ。 考え方と出あう！— [科目] 国語・算数・総合

保護者会同時開催!

今回のテストについて、そのねらいや今後の学びなど、詳しくお話しします!

日能研 学ぶチカラ テスト



【科目】3科目(国語・算数・総合)
 【会場】お近くの日能研各校
 【時間】1回目 9:00集合
 2回目 13:00集合
 ※一部、教室によって実施要項が異なります。詳しくは日能研ホームページでご確認ください。

テストの詳細・お申し込みは
 日能研 検索
 または
 お近くの日能研へ!
 以下のQRコードから
 学校行事などで都合がつかない場合はどうぞお気軽にご相談ください。

